令和４年度

第５次総合計画　中期戦略事業プラン　事務事業評価シート

事業名	大山誘客受入強化事業			事業番号	24-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	経済環境部	石田　康弘	商工観光課	志村　政昭	

計　画　（Ｐｌａｎ）

総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち
		基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり
		施策展開の方向	11	多くの人が訪れる賑わいのあるまちをつくる
		施策	24	魅力ある観光の振興
予算事業名	大山・日向地域活性化推進事業費			
事務区分〔選択〕	◉自治事務　○法定受託事務　(選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度　～	終了年度	
関連法令等				
国・県の計画等	神奈川県観光振興計画		計画期間	令和元年度～令和4年度
関連個別計画	大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト ～体感！悠久の歴史・安らぎの霊峰大山～		計画期間	平成30年度～令和4年度
実施の背景 （事業を取りまく環境・市民ニーズ）	大山地域は、豊かな自然環境と貴重な歴史的資源を有する地域ですが、首都圏近郊という立地条件にも関わらず年々宿泊客は減少し日帰り観光客が中心となっています。令和元年度には伊勢原・大山インターチェンジが、令和3年度には県道611号（大山バイパス）が開通されるなど交通アクセスの向上が図られる中で、本市のPRと来訪者への受入態勢の整備に係る効果的な取組が求められています。			
目　的 （何をどうしたいのか）	県の新たな観光の核づくり事業の認定を受けた「平成大山講プロジェクト」を推進し、大山・日向を中心とした丹沢大山の地域振興や国際観光地づくりを進めます。また、日本遺産に認定されたストーリーを構成する歴史・文化遺産や豊かな自然といった地域資源を活用した魅力づくりと効果的な情報発信を行うとともに、民間資本を活用した旅館街等のリノベーションに向けた研究を進めます。			
主な対象 （誰・何を対象に）	国内外から大山、日向地区を訪れる観光客等			
事業内容 （手段、手法など）	・観光行事やイベントについて、新型コロナウイルス感染症に係る国や県の動向に注視しながら有効的かつ効果的な実施につなげます。 ・外国人受入体制の充実を図るため、今後のインバウンド需要回復を見据え、多言語案内の整備や地域通訳案内士制度の導入などに取り組みます。 ・駐車場・渋滞対策を図るため、繁忙期に臨時駐車場を設置するとともに、高速道路高架下駐車場等の整備に係る方針決定等を進めます。			

事業行程	項目	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	観光行事・イベント	14イベント実施	16イベント実施
	外国人受入体制の充実	多言語道標・案内板等作成	多言語観光パンフ作成 多言語案内業務実施 地域通訳案内士制度の導入
	駐車場・渋滞対策	行楽シーズンに臨時駐車場を設置 高速道路高架下駐車場等の整備に係る方針決定	行楽シーズンに臨時駐車場を設置 高速道路高架下駐車場等の整備設計

目　標	【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	大山・日向地区の入込観光客数	100万人 （令和2年度）	100万人	104万人

事業実施（Do）

事　業　実　施　　（Ｄｏ）

事業の「取組方針」 （前年度事務事業評価）	県の補助金を活用した平成大山講プロジェクト事業の一環である人流データ分析・活用事業を推進し、コロナ禍で変容した観光客の周遊動向を遠隔収集にて把握・分析することで、ウィズコロナ・アフターコロナ期に対応した新たな観光施策の企画立案への活用を目指します。なお、その他事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら慎重な判断及び対応を図ります。

実施方法〔選択・記入〕			
○すべて直接実施	◉左記以外		
☑業務委託	☐指定管理	委託先又は指定管理者	(一社)伊勢原市観光協会等
☑補助金		補助先	旅館、飲食店、商店等
☐その他		具体の内容	

実施結果	項目	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	観光行事・イベント	14イベント実施	
	外国人受入体制の充実	多言語観光パンフレット及び登山マップの作製	
	駐車場・渋滞対策	多客期の臨時駐車場の設置 高速道路高架下駐車場等の整備に向けた調整	

実施した取組の内容	
	人流データ分析・活用事業(観光の核づくり事業)、登山道修繕、観光地警備案内業務、多客期における臨時駐車場設置等受入環境整備事業などを実施しました。

目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	大山・日向地区の入込観光客数	100万人 (令和2年度)	104万人	

コスト	年度	令和3年度　実績				令和4年度 実績			
	事業費合計(a)	10,814			千円				千円
内訳	国県支出金 ①	1,699			千円				千円
内訳	地方債 ②	0			千円				千円
内訳	その他特財 ③	0			千円				千円
内訳	一般財源 (a)-①-②-③	9,115			千円	0			千円
	国県支出金の内容	観光の核づくり推進補助金:1,699千円							
その他特財の内容	受益者負担	○有　◉無		前回の改定時期					
その他特財の内容	その他								
人件費	正規職員	0.9	人	7,362	千円		人		千円
人件費	その他の職員		人	0	千円		人		千円
人件費	人件費合計(b)	0.9	人	7,362	千円		人		千円
	トータルコスト (a)+(b)	18,176			千円	0			千円
単位当たりコスト	対象数 定義	大山・日向地区観光客数			単位				単位
単位当たりコスト	対象数 対象数	1,048,103			人				
単位当たりコスト	総事業費／対象数	17			円				円

評価　（Check）へ

評　価　（Ｃｈｅｃｋ）

進捗状況 〔選択・記入〕	○計画どおり（A） ◉概ね計画どおり（B） ○計画どおり進捗せず（C）	B	**左記判断理由**	観光行事やインバウンド受入体制整備、多客期における臨時駐車場設置事業について計画どおり進め、指標の目標値の達成に繋げました。一方で高速道路高架下駐車場等の整備に係る方針については当該工事箇所の進捗状況を勘案した中で庁内調整を進めましたが、決定までには至りませんでした。
実施水準 〔選択・記入〕	◉他市より高い水準で実施（A） ○他市と同水準で実施（B） ○他市より低い水準で実施（C） ○一律に比較できない事業	A	**他都市の事業内容等**	県が進める観光の核づくり事業に、大山地域（伊勢原、秦野、厚木の3市連携）、三浦市、大磯町の3地域が認定されています。当該事業については、県内第4の国際観光地を創出する取組としてのインバウンド対策事業の推進など他市より高い水準での観光施策に取り組んでいるものと考えます。
有効性 〔選択・記入〕	◉高い（A） ○普通（B） ○低い（C）	A	**左記判断理由**	新型コロナウイルス感染症の影響により各地で観光需要が減少する中、指標である目標値を上回ったことについては、各種事業の有効性は高く、観光振興及び地域の活性化に繋がっているものと考えます。
効率性 〔選択・記入〕	◉効率的に実施されている（A） ○改善の余地がある（B） ○抜本的な改善が必要である（C）	A	**左記判断理由**	コロナ禍において複雑化・多様化する観光客ニーズに対して行政単独ではなく大学や地域団体、民間事業者などで構成される平成大山講プロジェクト推進協議会において取り組むことで、様々な知識やノウハウを活用した効率的な事業展開が図れているものと考えます。

取組内容の改善　（Action）へ

取組内容の改善　（Ａｃｔｉｏｎ）

所属長による今後の方向性の判断	**方向性** 〔選択〕	◉現状のまま継続 ○見直しの上継続	**事業推進上の課題**	登山をはじめとするアウトドア需要の高まりを受けてコロナ禍においても多客期には慢性的な交通渋滞が発生しているため受入体制の更なる強化が必要となります。また、観光の核づくり推進補助金事業については、民間事業者との連携を前提とした秦野市、厚木市との3市連携による広域的な大山地域全体としての観光振興施策が求められています。
令和４年度の取組方針	県の補助金を活用した平成大山講プロジェクト事業の一環である「地域通訳案内士育成事業」を推進し、地域の魅力を外国人観光客に通訳・ガイドする「大山地域通訳案内士」を育成することで、アフターコロナに伴うインバウンド回復を見据えた受入体制の整備に努めます。また、その他事業の実施にあたっては新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら慎重な判断及び対応を図ります。			
所管部長による総評	本事業の実施にあたっては国や県の補助金・交付金等を積極的に活用しながら進めていくものとし、多様化する観光客ニーズの把握及びコロナ収束後の反転攻勢を見据えた事業を推進していくことで、更なる魅力アップ及びホスピタリティの向上を図っていく必要があると考えます。なお、各種事業の推進にあたっては、庁内横断組織である「連携・連動推進チーム」による協力体制も活用しながら取り組んでいきます。			